器 03 医療用消毒器

管理医療機器　小型包装品用高圧蒸気滅菌器(JMDN コード:38671020)

特定保守管理医療機器　高圧蒸気滅菌器　CLM-40L

【警告】

<使用方法>

1. 電源コードは単独で接続する。[火災や感電を防ぐため。]
2. 被滅菌物はステンレス金網カゴに入れて滅菌する。
   [フタの破裂を防ぐため。]
3. 運転前にフタを確実に閉める。[フタの破裂を防ぐため。]

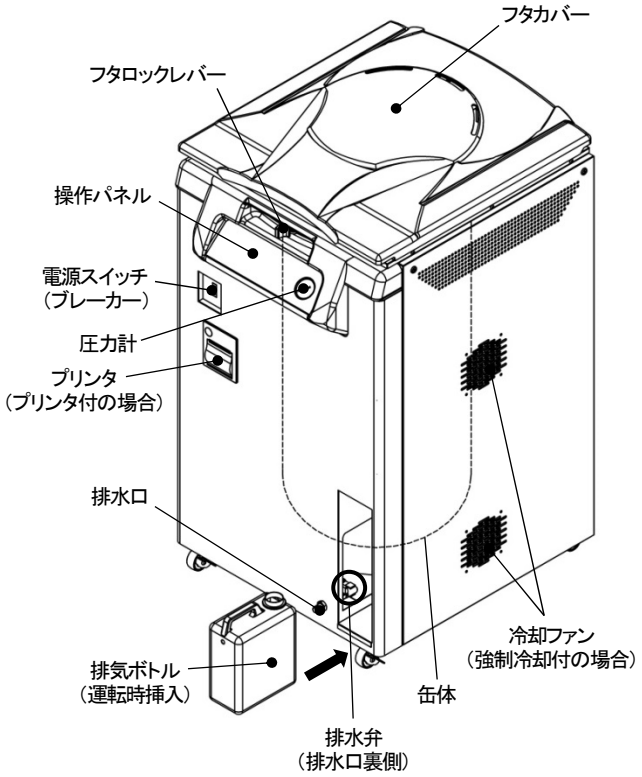
【禁忌・禁止】

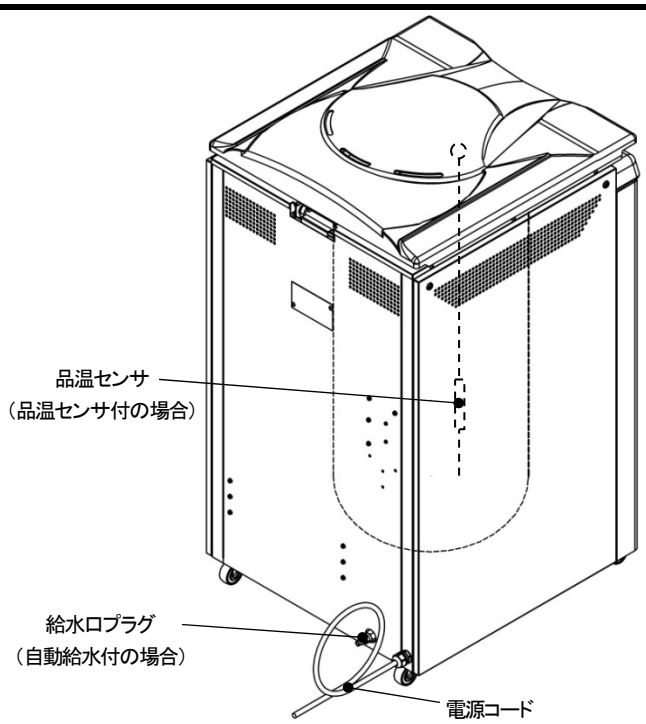
<使用方法>

1. 運転中は無理にフタを開けない。[フタの破裂を防ぐため。]
2. 圧力計の指針が 0MPa を指し、温度表示が 80℃以下になるまでフタを開けない。[フタの破裂・火傷を防ぐため。]
3. 引火性・爆発性物質、法定危険物を入れて運転しない。
   [発火・爆発等を防ぐため]
4. 濡れた手で電源スイッチ(ブレーカー)に触らない。
   [感電を防ぐため。]
5. フタロックレバーが滑らかに動かない場合は使用しない。
   [フタの破裂を防ぐため。]

【形状・構造及び原理等】

<本体の形状・構造>





<各部の名称及び説明>

名称	機能
缶体	被滅菌物を収納する容器
圧力計	缶内の圧力を表示する 測定範囲:0.0～0.4MPa
フタカバー	缶体のフタを覆うカバー
フタロックレバー	缶体のフタをロックまたはアンロックするときにスライドさせるレバー
操作パネル	<操作パネル>参照
電源スイッチ (ブレーカー)	電源を入れる際にレバーを上げる。また、過電流の際には自動で電気を遮断する 定格:20A
排水口	缶体内の水を抜く際のポート
排気ボトル (運転時挿入)	缶体内の蒸気及び空気の排出先
排水弁 (排水口裏側)	缶体内の水を抜く際に開ける弁。運転時には閉じる
電源コード	本体に電源を供給するための固定式のコード
冷却ファン (強制冷却付の場合)	滅菌工程または保温工程終了後に作動する
給水口プラグ (自動給水付の場合)	給水ホースを接続するポート
プリンタ (プリンタ付の場合)	本体に内蔵され、電源は本体から供給される

本製品には取扱説明書がありますので、必ず確認してください。

〈オプション〉

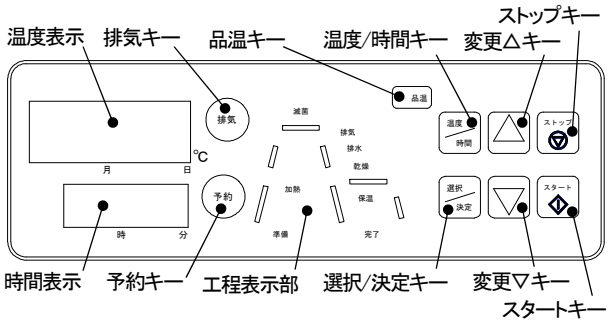
名称	機能
強制冷却	滅菌工程または保温工程終了後の冷却時間を短縮する
自動給水	運転開始時にスタートキーを押すことで自動的に缶内に給水される
品温センサ	被滅菌物の内部温度（品温）を測定し、その温度で運転を制御する（品温モード）
プリンタ	日付・時間・制御温度・品温（品温センサ付の場合）を印字する

〈必要とする設備〉

AC200V 仕様 ： 単相 50/60Hz 20A 以上

給水設備（自動給水付の場合） ： 水道圧 0.05MPa 以上

〈操作パネル〉



〈原理〉

フタを開けて缶体の中に水を入れ、被滅菌物を収納した後にフタを閉じてロックをする。スタートキーを押すと、缶体内のヒーターが水を加熱し、蒸気が発生する。缶体内の空気が発生した蒸気の圧力により重力置換されて缶体の外へ排出され、設定した滅菌温度に達すると滅菌タイマーが作動して滅菌を行う。設定した滅菌時間を経過すると、強制的に缶体内の蒸気を排出するか自然冷却によって缶体内の温度が下がり、既定の温度まで下がると終了ブザーが鳴って運転が終了する。

〈仕様〉

常用最高圧力・温度 ： 0.14MPa・123℃

滅菌温度調節可能範囲 ： 100～123℃

滅菌タイマー ： 0～48 時間 00 分

缶体寸法 内径(mm)×深さ(mm), 容量 ： φ400×832, 105ℓ

本体寸法 幅(mm)×奥行(mm)×高さ(mm) ： 620×650×1160

【使用目的又は効果】

高圧を有する蒸気を容器に導入し湿熱を利用し医療に使用する器具機材等を滅菌すること。

【使用方法等】

1. 電源スイッチ（ブレーカー）ON
2. 排水弁を閉める
3. 給水及び排気ボトルの給排水
4. 被滅菌物の収納
5. フタを閉めてロックする
6. ストップキーを押す
7. 運転パターン・温度・時間の設定
8. スタートキーを押す
9. 運転完了
10. 被滅菌物の取出し（缶内 80℃以下、圧力 0MPa で）
11. フタを閉めてロックする
12. 電源スイッチ（ブレーカー）OFF

【使用上の注意】

〈使用方法〉

1. 液体を滅菌する場合、滅菌終了後は十分に冷ましてから取り出す。
2. 液体を滅菌する容器は金属もしくは耐熱ガラス製を使用する。
3. 培地等の液体を容器に入れて滅菌する場合、通気性のないフタや栓で塞がない。
4. ガラス容器や液体を滅菌する場合は、自動排気をしない。
5. 排気ボトルから蒸気が出る場合、右側の側板をはずして本器内の排気冷却タンクに給水する。
6. バイアルびん，ねじ口びん，三角フラスコ等の細口びんを滅菌する際には、キャップを取外して使用するか、大きく緩めて使用する。
7. 液体滅菌（培地等）をする場合は、容器の容量の 80%以上入れない。
8. 被滅菌物を詰め過ぎない。（缶体容積の 60%程度が上限）
9. 被滅菌物が多量の水分であるとき、空気抜きしにくい形状の容器に入っているときは、被滅菌物自体の温度上昇が遅れるため、滅菌温度を高くする、または滅菌時間を延ばすなどの調整を行う。
10. 定期的に滅菌指標（ケミカルインジケータなど）を用いて、被滅菌物に対する滅菌条件の確認を行う。
11. 運転が完了し被滅菌物を取り出すときは耐熱グローブ等の手袋を着用する。
12. 排気ホースを折り曲げないようにする。

本製品には取扱説明書がありますので、必ず確認してください。

【保管方法及び有効期間等】

<保管の条件>

・周囲温度　　5～35℃

・相対湿度　　30～85%

・気圧　　90～106kPa

<保管上の注意>

以下のような場所には設置しない。

・屋外

・直射日光の当たる場所

・水滴のかかる場所

・ホコリの多い場所

・傾斜した場所

・塩分、硫黄分などを含んだ空気に触れる場所

・上記の周囲温度・相対湿度・気圧の範囲外の場所

<耐用期間>

7 年[自己認証(当社データによる)]

(但し、指定された使用環境において標準的な頻度で使用され、指定の保守点検と定期交換部品・消耗品の交換をした場合の年数であり、使用状況によっては異なる場合がある)

【保守・点検に係わる事項】

<使用者による保守点検事項>

1. 毎日行う点検

・滅菌用水の交換

・クランプの動作確認

詳細は取扱説明書 8. 1 毎日行う点検 を参照すること。

2. 毎月行う点検

・缶内およびフタパッキンの清掃

・電源周りの確認

詳細は取扱説明書 8. 2 毎月行う点検 を参照すること。

3. 毎年行う点検

・排気冷却タンクの水量確認

・缶体, フタの損傷の有無

・安全弁の漏れの有無

・圧力計指度の狂いの有無

・フタパッキンの状態確認

・フタの状態確認

・配管・弁の状態確認

・制御装置の動作確認

・日常使用している滅菌用水

詳細は取扱説明書 8. 3 毎年行う点検 を参照すること。

<業者による保守点検事項>

上記 3. 毎年行う点検 に下記 5 項目を加えた弊社による定期点検(年 1 回以上)を弊社に依頼すること。

・電気的安全に関する点検

・ロック機構部の点検・調整

・各安全装置の作動確認

・消耗品の点検・交換

・缶内(無負荷状態)温度の妥当性確認

<定期交換部品・消耗品>

下記部品は 3 年に一度の交換を推奨する。

・圧力計

・フタパッキン

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

<製造販売業者及び製造業者>

アルプ株式会社

〒205-0003 東京都羽村市緑ヶ丘 3-3-10

TEL : 042-579-0531

FAX : 042-579-0533

E-mail : alpco@wonder.ocn.ne.jp

URL : http://www.alpco.co.jp

<販売業者(販売店)>

本製品には取扱説明書がありますので、必ず確認してください。